

米、キューバへ圧力強化

カストロ元議長起訴

体制転換手法 対ベネズエラと酷似

【ワシントン＝栗山紘尚】米国のトランプ政権は20日、キューバ革命の立役者の一人、ラウル・カストロ元国家評議会議長の起訴に追い込み、体制転換への圧力を一段と強めた。反米国家の「トップ」を標的にする手法は、1月のベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領拘束とも酷似する。新たな軍事行動に発展する不安もぬぐえない。〈本文記事1面〉

トランプ米大統領は20日、「言いたくない」日、記者団から、ベネズエラと述べるにとどめた。一方、中南米を管轄する米南方軍は20日、ニミッツ



ハバナの中を歩く人々。首都ハバナのゴミ物を探る人々（4月）

空母打撃群がキューバに近しいカリブ海に到着したことと公表した。威嚇が主な目的だとみられているが、ベネズエラへの軍事行動の一端で米空母が投入された経緯を踏まえれば、キューバに対する軍事行動に発展する可能性があることも否定できない。

トランプ政権にとって、マドゥロ氏拘束は成功体験となつている。第1次トランプ政権時代の2020年、マドゥロ氏は麻薬密輸などに関与したとして起訴。米軍は刑事訴追に必要な措置だとして、1月のマ

米とキューバを巡る主な出来事

1902年	5月	キューバ独立
59年	1月	キューバ革命
61年	1月	米とキューバが断交
62年	10月	キューバ危機発生
96年	2月	米民間小型機墜落事件
2015年	7月	米とキューバが国交回復
21年	1月	米、キューバを「テロ支援国家」に指定
	1月3日	米がベネズエラを攻撃
	1月29日	トランプ氏、キューバに石油供給に関する課税を課す大統領令署名
26年	5月14日	米CIA長官がキューバ政権高官らと会談
	5月20日	ラウル・カストロ元国家評議会議長らを殺人罪などで起訴

ドゥロ氏拘束につなげた。米紙ニューヨーク・タイムズは、マドゥロ氏とラウル氏が「起訴」されている類似性に触れ、米軍が「同様の手法」を用いて、ラウル氏を拘束しようとする可能性があることと言及した。

トランプ政権は、キューバに対する経済的圧力も強い。1月のマドゥロ氏拘束以降、ベネズエラからキューバへの石油供給は絶たれ、トランプ氏は1月末にはさ

らに、キューバに石油を供給する国からの輸入品に課税を課す大統領令に署名した。キューバは事実上の石油禁輸措置を4か月以上にわたって受けたことで深刻な燃料不足に陥っている。

米司法省がラウル氏の起訴を公表した20日は、くしくもキューバの「独立記念日」だった。キューバ移民2世のルビオ米国務長官は20日、キューバ国民向けにスペイン語のビデオメッセージを公開し、「より良い未来を阻んでいるのは、あなたの国を支配している者たちだ」と語り、トランプ政権は、支援の手をさしのべているとも訴えた。

生活の困窮は現体制に原因があると強調すること、体制転換につながる狙いがあるとみられる。

停電1日20時間「もう限界」

【リオデジャネイロ＝大月美佳】キューバの国民生活は、米国のによる事実上の石油封鎖で困窮を極めてい

は停電中で、物価は高騰。食料も薬もない。燃料不足でゴミ収集車がなくなつてゴミがあふれ、蚊やネズミが増えたという。

アコスタさんが教える学校ではすでに多くの子供が通学しなくなった。登校し

た子供たちも「おなかをすかせ、疲れ果てている」という。キューバ教育省は19日、停電などの影響で通学が困難になっているとして、学期の終了を通常の7月から6月に前倒しすると発表した。

石油封鎖

国民困窮 食料も薬も不足

「もう限界」。首都ハバナの小学校補助教員ユディスレイデイス・アコスタさん(35)は20日、本紙通信員の電話取材に答えた。自宅

広告業を営むアベル・ロサレスさん(48)も「トランプはキューバに地獄を作り出している」と憤る。未明に電気が復旧した時に家事をこなし、くたくたになつて職場に向かう日々だ。